

社会福祉法人瑞宝会運営施設での虐待事件に関する声明

本年4月15日に社会福祉法人瑞宝会が運営する障害者支援施設ビ・ブライトで発生した虐待事件では、被害に遭った入所者男性は腰骨の骨折や内臓損傷など重傷を負いました。被害者の受けた痛み、苦しみ、そして心身の深い傷を思うと、私たち知的障害のある人の家族としては悲しく、悔しく、やりきれません。同法人および関係機関には、まず被害に遭った方の心身のケアに全力を尽くしてほしいと考えます。

暴行行為は断じて許されるものではありません。加害者とされる職員らには、どんな事情があれ、自らの犯した罪と被害者の受けた傷に真摯に向きあい、司法手続の場で真実を語り、被害者への誠意ある謝罪と心からの反省を行うことを求めます。

本来は障害のある利用者の安全を守るべき義務を負いながら虐待を防ぐことができなかった運営法人に対しては、警察や行政機関の調査に積極的に協力するとともに、なぜ事件を防ぐことができなかったのか、自らの運営や管理体制、支援のあり方などに問題はなかったのか、事実を隠蔽することなく、自らの手で真実を明らかにして責任を明確にしてほしいと考えます。

運営法人を指導する立場にあった栃木県および宇都宮市は、同法人への関与のあり方が適当であったか見直すとともに、事件の背景について専門家の協力も仰ぎながらきちんと調べ、二度とこうした事件が起きないように再発防止に努めるべきと考えます。同時に、被害者および現在同法人の施設を利用する他の利用者の状況・意向を確認し、利用の中断や退所を希望する場合には関係自治体、機関と連携して次の利用施設等を責任をもって探すようにしてください。また、同法人の運営する施設には、県外からの利用者も多く含まれると聞きます。こうした利用者が同法人の施設に入所することになった経緯について出身地の自治体とも連携して把握し、入所や利用が本人の希望に基づくものなのか確認してください。

県内で発生した今回の虐待事件を、私たちは忘れることはありません。こうした悲惨な事件がくり返されないよう、また施設が本来の機能を果たし関わる職員が健全に支援ができるように、私たちとしても各方面と協力しつつ、取り組んでいきたいと考えます。

平成29年9月14日

一般社団法人 栃木県手をつなぐ育成会
会長 小島 幸子